山形新聞　2016年5月15日

月山周辺の５市町村と関係機関でつくる月山ジオパーク推進協議会（会長・小川一博西川町長）は、ジオパーク加盟に向けた機運を高めていこうと、２種類の啓発紙を５、６月にかけ、５市町村の約６万世帯に全戸配布する。

月山 大地の恵み紹介

２種類のパンフ ５市町村で全戸配布

「ジオパーク」は大地の公園を意味し、貴重な地形や自然景観の価値などを再確認して、教育や地域の観光にも生かしていく取り組み。協議会に加盟しているのは鶴岡、庄内、西川、戸沢、大蔵の5市町村。ことし7、8月に行われる現地審査を経て、9月下旬に加盟の可否が判明する。

第1弾は「月山の『なぜ？』を発見しよう」をテーマに、導入部として、ジオパーク構想の取り組みを2ページで紹介。テーマ「雪・風・大地のおそれとめぐみ」をひもといている。

第2弾は12ページにわたり、月山を形成した地形の起こり、豪雪とともに生きてきた人々の暮らし、雪がもたらす恵みの水、自然のエネルギーの4テーマに分け、写真を交えて掲載している。山岳信仰の聖地として栄えた霊峰月山にまつわる五つの不思議も載っており、万年雪が湧き水として地表に出てくるまで、４００年かかるという伝説を紹介している。いずれもＡ４判。

パンフレットは、市町村ごとに、自治体の広報紙とともに配られる。

月山ジオパーク構想を知ってもらおうと、周辺の5市町村に全戸配布される啓発紙